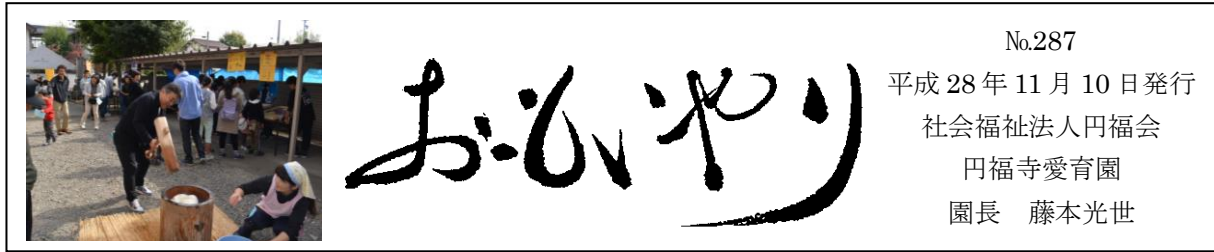


第 19 回愛育園祭特集号です。写真は、ご来賓の方がお餅つきをしています。



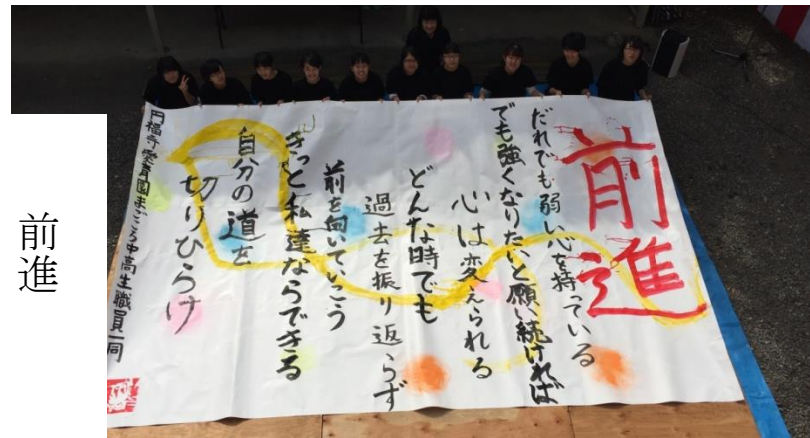
素晴らしかった第 19 回愛育園祭

園長 藤本光世

通明小学校校長先生、篠ノ井東中学校校長先生、西横田区長さんはじめ大勢のご来賓の皆様をお迎えして、好天に恵まれた第 19 回愛育園祭を開催することができました。通明小学校の先生方には大勢参加していただき、ありがとうございました。子どもたちは先生が来るのを楽しみにしています。ありがたいです。

年々、子どもたちが準備や後片付けを進んでやってくれるようになりました。特に年長児が労をいとわずに進んでやってくれて、短期間で準備ができました。職員も頑張ってくれました。うれしいことです。

愛育園祭は、毎年恒例のお神輿、善光寺木遣り、書道パフォーマンスで始まりました。木遣りは 3 人のリーダーが腹の底から出る大きな声で、盛り上げてくれました。書道パフォーマンスは、子どもたちが考えた言葉を、音楽に合わせて見事に仕上げることができました。ホームページに動画を掲載しましたのでご覧ください。



前進

だれでも弱い心を持っている
でも強くなりたくて願っている
心は変えられる

どんな時でも

過去を振り返らず

前を向いていこう

きっと私たちならできる

自分の道を

切りひらけ

話してくれました。昔は、愛育園の子は家庭の子とは違っていました。壇上に登っても口を開かず、歌を歌わない。一生懸命な姿を見せない。わざと横を向く。真剣にまじめに取り組む姿は格好悪いというようにわざわざ。一言で表現すれば、ひねくれている。そんな傾向がありました。それを、

愛育園の子どもの臭いとも表現してくれました。それがなくなった。一般家庭の子と同じになった。その発言は、私たちの養育の成果が子どもの姿に表れているように感じて、うれしかったのです。

愛育園祭にも小学生の子どもたちの発表がありました。子どもたちが、表情豊かに、体をゆすって、心の底から楽しんで歌っている姿を見て、私も愛育園の子が変わったと思いました。もちろん中にはあまり口をあけていない子もいるのですが、一生懸命歌っている子が増えて、主流となり、あるいはあの子もあんなに歌っていると感動しました。



第 19 回 愛育園祭

副園長 青谷 幸治

去る 10 月 22 日に愛育園祭を開催することができました。今年で 19 回を迎えることができました。愛育園大運動会からわずか 1 ヶ月。職員と中高生で慌しく準備をしてきました。今年、私が驚いたことは中高生が積極的に取り組んでいること。昨年までは言われて動き始める児童がいましたが、今年は自ら進んで愛育園祭を盛り上げるために努力していること。そして自ら楽しんでいること。愛育園の行事がただ、こなすだけの行事ではなく、意味のある行事に変わり、行事のよって子どもたちが育っているなと感じました。苦労して考え、失敗して考え、そして達成感やお客様に喜んでもらえることを肌で感じ、職員と気持ちを共有することができました。開会式での木遣りや書道パフォーマンスは気持ちを一つにして取り組むことができました。発表では小学生が身体を大きく揺すりながら歌っているのに感動しました。ラストは運動会の応援合戦で披露した扇子の舞は圧巻でした。見ていただいた方々に感動を与えることができました。たった 4 時間の行事であっても



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

1ヶ月という時間をかけ中高生が中心となり作り上げることができたなと思いました。もちろん片付けも全員ですばやくできるのも今の愛育園の良いところです。

来年は20回の記念の年です。更に中高生が積極的に関わり、自信に満ち溢れた様子をお見せできると思います。

来賓の皆様、西横田区の皆様をはじめお忙しい中、多くの方々にお出でいただき誠にありがとうございました。

愛育園祭 主任保育士 石崎 早織

10月22日は第19回愛育園祭が開催されました。9月に行われた愛育園大運動会からあつという間に次の行事になり、慌ただしくもありましたが、子ども達と充実した時間を過ごすことが出来ました。今年も中高生女子と女性職員で書道パフォーマンスをやらせて頂きました。今年で4回目になりますので、子ども達もだんだんと段取りがわかり、本番もみんな落ち着いて、自分の任された字を一生懸命書くことが出来ました。私がこの愛育園祭で一番嬉しかったことは、子ども達の感想文の中に、学校の友達に来てくれたことが嬉しかったと書いてあった事です。その事を書いてくれたHさんは、今まで愛育園祭に友達を呼んだことはありませんでした。友達という時もいつも



恥ずかしそうにしているHさんですが、一緒に友達と露店を回り、友達もそんなHさんの笑顔を見て嬉しかったと教えてくれました。またHさんも友達に来てくれて本当に嬉しかった様子が文章を見ても伝わってきました。次にSさんです。Sさんも友達4人が愛育園祭に来てくれたこと、また愛育園をすごいと言ってくれたことが嬉しかったと感想文に書いてくれました。今までの愛育園であればきっとこんな言葉は聞かれなかったと思います。今一人一人が自分のやるべきことに一生懸命取り組んでいるからこそ、園全体が落ち着き、そして行事にも全力で取り組むことができているのだと思います。そういった姿を行事を通してもっとたくさんの方々を知って欲しい、そして子ども達には愛育園ってすごい！！と今まで以上に思ってもらえるよう、今後もさらに頑張っていきたいと思いました。

第19回愛育園祭 まごころ保育士小林礼

一年前、お客さんとして愛育園祭におじゃましましたが今年は開催側としての参加になります。運動会が終わり日がないなかで準備を進めました。露店準備では係りのフロートの看板を子どもと協力して作り当日の流れなどを一緒に確認しました。その他にも書道パフォーマンスの練習もする

(平成28年11月10日発行 月刊「円福」484号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

中で、入場門作成の仕事もあり大きな不安を抱えていましたがそんな時私を助けてくれたのは子ども達でした。「何かあったらやるよ！」「明日の午前中空いてるよ！」など自らお手伝いをしてくれました。そのおかげで不安だった作業も期限に間に合わせて楽しく終える事ができました。私はその子ども達の前向きで積極的な姿勢が本当に嬉しく普段手助けをしていることへのお返しをしてもらったようなそんな気持ちになりました。感謝です。その子ども達も含め、中高女子・女性職員の発表の目玉である書道パフォーマンス。夜21時から毎日体育館に集まって個々に黙々と自主練習を行ってきました。本番の前の日の夜。リハーサルの大きな1枚の紙にそれぞれの練習の成果をぶつけます。成功。見事でした。書道パフォーマンスは両隣との間隔、字の大きさとバランス、そして全体像のバランスまでを考慮し更に曲に合わせて文字を書き進めなければなりません。全員の心の方向が揃っていなければ全てずれ込んでしまいます。それがピタッと揃った子の瞬間清々しい気持ちで心がいっぱいになりました。いよいよ本番！書道パフォーマンスは開催式のフィナーレを飾ります。上手くいったリハーサルよりも更によい出来となりました。最後に書き上がった一つの文章を一行ずつ読み上げる際、感極まって涙が出そうになりました。一つの大きな作品を協力して見事作り上げることができた、これは快く作業を手伝ってくれる子ども達が真っ直ぐな心をもってして生み出した成果なのだかと強く感じました。また、それを愛育園祭という開かれた場で日ごろお世話になっている皆様に見ていただけたことで感謝の気持ちを伝える事が出来たのではないかと思います。



『愛育園祭』 まごころ 保育士 竹内早季

キャンプ、運動会と続き大きな行事の一つ「愛育園祭」が無事開催されました。昨年、私自身招待された身として小学生たちと露店を回ったり、発表を見たりして終始受け身で楽しんでいたのですが、今年は準備の段階から当日の運営まで関わることができ、たくさんの人に楽しんでもらうためには裏で多くの準備が必要だということに気づかされました。その中でも中高女子と職員で丸となって取り組んだ「書道パフォーマンス」は、短い期間ですが毎晩練習を重ね、息を合わせてきました。それぞれ部活や勉強に忙しい中でもやるときはやる、という雰囲気を感じられ、職員としても気が引き締まりました。書道に関しては何年ぶりに筆を持ったのだろうというくらい久々だっ

たので、とても上手に書けるとは言えませんが、それでも自分が今できる精一杯の努力をしようと練習に励みました。初めて大きな紙に書いたときは緊張しましたが、子どもたちの「上手に書けた！」



「もう少し大きく書いた方がいいかな？」という前向きな声で楽しんで取り組みました。本番も良い緊張感で臨めましたし、たくさんのお客さん達に中高生の努力が伝わったのではないかと考えています。

第19回愛育園祭

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり
10月22日に、第19回愛育園祭が開催されました。愛育園祭に向けて、日々子ども達も職員も一生懸命準備・練習してきました。愛育園祭の準備を通して、改めて子ども達の積極性を感じました。「写真スポットを作るのを手伝ってほしいんだけど...。」と頼むと、

嫌な顔一つせず「いいよ！何やればいい？」と言ってくれる中高生がいたり、「先生！花紙でお花沢山作っておいたよ！まだお手伝いある？」と聞いてきてくれる小学生がいたり...。積極的に準備に取り組む子ども達の姿に感動しました。

また、書道パフォーマンスにも参加させていただきました。愛育園祭の2日前から、本番と同じ大きさの紙に書く練習を始めました。イメージトレーニングをして、試行錯誤しながら、何度も練習して本番を迎えました。本番では、みんなの「成功させたい！」という強い気持ちが1つになり、

成功させることが出来ました。みんなで書道パフォーマンスに一生懸命取り組んで来て、それが成功した瞬間、私はすごく感動しました。子どもたちと職員の大きなパワーも感じました。



午後のステージ発表の、小学生の歌の発表にもピアノ伴奏として携わらせていただきました。なかなかまとまらず、苦勞した点もありましたが、青谷先生や石崎先生のアドバイスやご指導のおかげで、

本番は素敵な歌の発表が出来ました。小学生が体を揺らして、一生懸命歌う姿で、お客さんを感動させることが出来ました。小学生にとっても自信につながったことと思います。

大成功に終わった愛育園祭、この自信を普段の生活に生かし、次の行事に向けてもみんなですべて1つになって頑張っていきたいと思います！

児童感想

先日第19回目の愛育園祭がありました。私がこの愛育園祭で思い出に残っている事は4つあります。最初に扇子の舞です。運動会の練習を始めてようやくさまになってきたところを発表できて良かったです。中高生の力が一つになった気がします。次に中高生女子の書道パフォーマンスです。私は去年も参加していて今年で2回目でした。「今年はなんて書くんだろう」と考えていたら、石崎先生に呼ばれて書道の内容について話をしました。どんな構図や背景か、また言葉も一緒に考えました。「前進」という言葉から色々な事を書きあげ、言葉を練ってまとめるのは楽しかったし、その間いつも話せないようなことを話したりし、とても充実しているように思いました。当日、音楽が止まるというハプニングがありましたが、その後はとても順調に進んでいき、成功に終わりました。書いた言葉のように前へ前へ進んでいきたいと思っています。次に友達が来てくれたことです。高校に入ってから出来た新しい友達4人が愛育園祭に来てくれて、嬉しかったです。しかも「愛育園ってすごいね」と言ってくれてますます嬉しいです。友達も園の生活も大切に出来る高校生になりたいです。最後にポスターのことです。今年も先生に愛育園祭のポスターのイラストを任せてもらいました。先生と話をしているうちに考えがまとまり、納得するイラストが描けました。任せてもらったことも、自分の中で満足のできるイラストが描けたことも両方、とても嬉しかったです。来年も任せてもらえるように頑張りたいと思います。愛育園祭は周りとの協力、人との繋がりがなくては完成しないと思いました。人とのつながりや、縁を大切に一日一日を大事にしていきたいと思えました。去年の愛育園祭よりも前進できた第19回愛育園祭でした。(高1 S・Y)

第19回愛育園祭

保育士 近藤 典雄

10月22日今年も愛育園祭の時期がやってきました。小学生も中高生もこの日のために準備をしたり、練習を重ねてきました。小学生は今年も歌の発表を中高生はそれぞれ、書道ガールやリコーダー、運動会でも発表した扇の応援合戦それぞれ頑張っていました。

小学生の発表は、ゆずの「OLA!!」



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

AKB48の「365の紙ヒコーキ」を発表しました。10日ほど前に選曲を皆が集まったところで夕方と夕食後の二回に分けて毎日練習をしてきました。リズムが早くてなかなか覚えられなかったり、周りとうまく合わなくて苦労する事もありましたが。みんな体を左右にゆすりながら楽しそうに歌い段々と上手くなっていき、全体の呼吸もあってきました。

そして、いよいよ本番、午後のステージ発表の一発目と言う事もあり、少し緊張ぎみで待っていましたが。ステージに上がって、ピアノの伴奏が始まって歌いだすと元気な声が聞こえてきて体育館中に広がっていました。みんな笑顔で大きな声を出して良いステージ発表になったと思います。最後にはサプライズで紙ヒコーキをみんなで飛ばして来園されたお客さんも喜んでくれたと思います。

今年も子ども達と職員の先生達の力が合わさって大成功に終わったと思います。

愛育園祭 保育士 富沢正樹

10月22日、第19回となる愛育園祭が行われました。今年も、中高生を中心に露店の準備や発表の練習を行い、みんなで作り上げた愛育園祭となりました。

私は、露店の一つである、コリントゲームを中学1年生のY君と担当しました。設計図を書いたり、ホームセンターへ材料となる木材を買いに行ったり、時間のない中でしたが、面白いものを作ろうと、色々なアイデアを出し合って、小学生や幼児さん、来てくださった方々に楽しんでもらったコリントゲームを作ることができました。

コリントゲームの製作中には、普段以上に中学校での事など、たくさん会話をすることができ、愛育園祭の準備を通してとても良い時間を過ごすことができました。

Y君も愛育園祭が近づくにつれて、日に日に積極性が増えてきて、毎年、お祭りの景気つけで行っている「木遣り」の担当も、当初、別の子を予定していたのですが、「自分がやりたい」と立候補するほどに意欲的な姿がありました。

当日は多くの方が来てくださり、子供たちの成長の様子を見ていただくことができました。子供たちも、自分たちが楽しみながら、周りの人たちへのおもてなしを忘れず、愛育園祭を成功させようと頑張っていました。

来年の愛育園祭もまた、一人一人の成長を披露できるような愛育園祭になるように、日々生活



(平成28年11月10日発行 月刊「円福」484号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

から頑張っていきたいと思います。

第19回愛育園祭 調理主任 伊藤 慈子

10月22日に、今年も愛育園祭が行われました。天候が心配されましたが、当日は晴れてよかったのですが、風が強く、肌寒い日でした。

今年も、調理のエプロンを園長先生に揃えていただき、当日、初めて調理全員で着ました。このエプロンが、愛育園の『調理のユニホーム』となるので、園の職員として気を引き締め、改めて頑張ろうと思いました。

毎年、調理では豚汁と、つくたてのおもちを出しています。前々日から準備が忙しくなり、当日は朝早くからみんなで、会場の準備と並行して作りました。おもちの味付けは、いつもと同じ「きな粉」と「黒すりごま」ですが、いつも食べる時、味がぼやけてしまうので、今年は甘味と塩気を濃くし、しっかりと味をつけました。そのかいあって、とてもおいしくできました。豚汁も、たくさんの具材からうま味がたっぷりでした。当日は風が冷たかったのですが、心も体も温まりました。

今年の露店は、去年と同じく《フランクフルト》、《綿あめ》、《フロート》、そこに今年は新しく《円福焼き》を加え4種類ありました。今年の《フロート》は、飲み物の種類を絞り、初めての《円福焼き》は、愛育園の名物となるよう試作を重ね、大き目キャベツが入った、長芋が入りのふんわりとした、1枚でも食べがいのある円福焼きができました。どの露店も担当した中高生がとても頑張り、大盛況でした。そして、午後は子ども達の発表です。一人ひとり一生懸命歌っている小学生の歌、男性職員と男子高校生の楽しいリコーダー演奏、運動会の映像からの、間近での中高生と職員による扇子演舞、どれもとても素晴らしかったです。忙しい中、時間を作ってたくさん練習していた成果が出ていました。みんなが一つになり、こんなにしっかり発表できる愛育園の子供たちと職員に、本当に感動しました。

大変な部分もありましたが、皆で協力し、何とか無事にできました。また、たくさんの方が来てくださり、充実した楽しい一日となった愛育園祭でした。

愛育園祭児童感想

愛育園祭の一週間前、露店やステージ発表を決め、準備や練習に毎日忙しく大変でした。ステージ発表のリコーダーは苦手で何度練習してもテンポは余り追いつかなかったけれど少しずつ出来るよ



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

うになってきました。その他にも運動会でやった扇子もやりました。扇子のほうはまだ体が覚えていて少し練習して上手く踊る事が出来ました。

愛育園祭の当日発表が上手くいか緊張しながら露店の射的の仕事をしていましたお客さんがいっぱい来て忙しかつたのですが。楽しんでくれていたので良かったです。午後に入り発表が始まりました。小学生の歌の発表が終わり自分達の出番が来ました。最初は野菜をリコーダーの変わりにしてウケを狙いました。その後は真剣にリコーダーを持って「さんぽ」「ハナミズキ」「花は咲く」を吹きました。練習の時はリコーダーが苦手ではほとんど出来なかったけれど本番では上手く行って良かったです。



愛育園祭も成功に終わって良かったです。次の行事にも力を注いで頑張りたいです。(KO)

初めての愛育園祭

僕は、愛育園に来て初めての愛育園祭でした。準備等は受験生であり手伝えませんでした、当日は楽しくやれました。

最初の開会式では、木遣りをやりました。初めてのことで何がなんだか分からなかったけれど練習をして何とか覚える事が出来ました本番では間違えずに大きな声でできて良かったです。

次の露店では綿菓子をやりました。僕は綿菓子を作った事が無かったので担当の先生などに聞いたりしました。何個か作っていくうちに上手になってきましたお客さんもたくさん来てくれて「おいしい」と言ってくれる人が多かったです。



午後の部はステージ発表の時間で小学生の発表では、皆が今まで練習してきたというのが伝わってきました。最後の紙ヒコーキを飛ばすところはすごかったです。高校生男子と職員の発表は野

(平成 28 年 11 月 10 日発行 月刊「円福」484 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

菜を持って笛に見立てて吹いている真似をしていて面白かったです。リコーダーの演奏も難しい曲を演奏していてすごかったです。最後は中高生・職員全員で、運動会の扇子の発表をしました。当日はいない人もいたため僕はその穴を埋める事になり新しく覚えなくてはいけない事もありましたが失敗しないで出来て良かったです。

初めての愛育園祭は、とても楽しかったです。来年は高校生になるので、愛育園祭の準備から楽しみたいです。(SA)

須坂マラソン

10月16日、竜の里須坂健康マラソン全国大会に参加してきました。秋晴れの爽やかな空の下で、全国から2000人以上が参加し大賑わいの大会でした。

今回、子ども達はそれぞれ

○小学3年生以下 2.5km

○小学4年生以上 2.5km

○男子39才以下 5km

○男子39才以下 10km

の部門に分かれて参加をしました。8月から運動会へ向けてマラソン練習をしてきましたが、この



須坂マラソンのコースは上って下ってまた上ってと、起伏の激しいコースです。普段の練習とは違うコースに戸惑いながらも、みんな最後まで全力で走りきる事ができました。

去年も出場し今年で2回目の参加となる今大会では、何人も、入賞まであと少しという所まで行きましたが、残念ながら入賞は逃してしまいました。悔しがる姿の後、次こそは！と燃え、もう一度鍛えなおして来年挑戦したい。と決意する子ども達。

昨年よりも今年、今年よりも来年。どんどん成長していく子ども達を支えながら、次の行事へ向けて、一緒に挑戦していきたいです。

安曇野リレーマラソン

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

10月30日、アルプスあづみの公園にて、リレーマラソンが行われました。私は、選手として参加させていただきました。愛育園祭が終わり、時間が無い中、毎日練習してきました。寒い中、「昨日の自分の記録を少しでも越えたい！」と意気込んで練習する子ども達の姿が見られました。「昨日より30秒も速くなったよ！」と嬉しそうな様子、「今日はいいいタイムが出なかった...。」と悔しそうな様子、一緒に練習する中で、様々な表情を見てきましたが、子ども達はいつでも真剣に練習に取り組んでいました。

そして迎えた当日。Aチームは、「去年の記録を越えよう！」という目標を持ってスタートしまし

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

た。走る前は、子ども達も、私も、不安や緊張でいっぱいでした。本番のコースは、上り下りがあり、思ったよりも体力が奪われましたが、最後まで誰一人として手を抜く子はいませんでした。それどころか、コースの最後のきつい上り坂で全員が、「1秒でも速く次の走者に、たすきを渡したい！」と最後の力を振り絞って一生懸命走っていました。チームのみんなの為に、本気で頑張る姿に私は感動しました。

Aチームは、去年の記録を越えることは出来ませんでしたが、制限時間内にゴールすることが出来ました。チームのみんなの為に一生懸命走り、全員でゴールする感動を味わえたのではないかと思います。私自身、選手として参加することが決まり、不安でいっぱいでしたが、子ども達の一生懸命な姿に励まされ、走ることが出来ました。ありがとうございました。

安曇野リレーマラソン 児童感想

今日、僕たちは、42.195キロのリレーマラソンに参加しました。一周1.5キロのコースを想定して、1週間前から毎日、1.5キロを2本走る練習をしたり、坂道でもペースが落ちない様に坂ダッシュの練習をみんなで繰り返してきました。

愛育園から2チーム参加して、本番数日前から、目標や作戦を立てました。僕のBチームは2時間48分以内を目指す事にしました。僕は、最後まで手を抜かずに走り切るという決意をもって参加しました。

本番では1周するのに6分以内を目指しましたが、3周走って、惜しくも6分を切る事は一度も出来ませんでした。ですが、全力を出し切る事ができて良い走りが出来たと思います。それに、自分がオーバーしてしまった分のタイムを他のメンバーがカバーしてくれていたのでも、自分も全力で走る事が出来ました。このチームで走る事が出来て良かったです。

結果は2時間48分5秒で、目標まで5秒足りませんでした。でも、一般部門の順位は4位になれて嬉しかったです。

次回は、自分がチームの人の為に時間を縮めてチームの目標を達成するための頑張りを目指したいです。(AH)

リレーマラソン

10月30日に安曇野で行われた42.195キロのマラソンに参加しました。去年も参加してどうい



(平成28年11月10日発行 月刊「円福」484号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

ものなのかは分かっていましたがとても緊張してしまいました。去年は、1チーム参加しましたが今年は2チーム参加し、私は円福寺愛育園Bチームとして出場しました。Bチームは人数が少なく、しかも男子だけというチームでとても不安でいっぱいでした。でも、チームの皆がすごく優しく励ましてくれてとても嬉しかったです。走順決める時に一番最後を私がやらせてもらえることになりました。そして、本番はすごく寒い中でやりました。でも、諦めず、次の人にタスキを渡そう！という気持ちでいっぱいでした。最後まで全力で走り、次の人にタスキを渡すことができました。私は全部で4回走りました。とても大変で苦しかったけれど、頑張ることができました。それもチームの皆が応援してくれたからだと思いました。リレーマラソンではチームと協力して走ることができ、2時間4分05秒という記録を出すことができ、しかも全体で10位、部門で4位という嬉しいところまでだったのでとても悔しかったりしました。今年もいい思い出になり良かったです。あと上まで連れて行ってくれる電車に乗れて嬉しかったし、楽しかったです。(YO)

